

発見!おごおり遺産

No.16 中世の城館

交通の要所である小郡は、古くから北部九州支配の重要な拠点の一つでもありました。今回から3回に渡って、戦いの記憶をたどります。



山隈城の想像図



現在の乙隈城跡



市内の中世城館の分布

古

代以降の国境線には通常大河などが利用されますが、小郡市を含む旧三井郡は、筑後国で唯一筑後川の北側に位置します。これは、地域の重要性を表す証拠の一つです。

中世(鎌倉〜室町)は戦乱の時代で、市内に五つの城館が築られました。

花立山の山頂にあったのが「山隈城」です。大保原(大原)合戦の際に、北朝方少弐氏が陣を構えたとも伝わります。戦国時代の1567年から1570年の古文書には、大友家家臣戸次鑑連(後の立花道雪)が、秋月種実や龍造寺隆信攻略のために在陣した記録があります。また、豊臣秀吉の九州平定後は、小早川隆景の支城となりました。

現地では、今も往時の雰囲気を感じることができません。現在の展望台がある高まりは「本丸」で、駐車場の場所は「三の丸」です。本丸から西側には「出丸」が延びています。周辺には「空堀」も見られ、強固な館の様子が想像できます。

ポピーの里あじさか館のすぐ西側にあったのが「西鯉坂城」です。戦国時代、勝尾城(鳥栖市)を拠点に勢力を誇った

筑紫広門の家臣である宗氏の居城として、古文書に登場します。現地には「城ノ内」や「大手木」など、城と関係ある地名が多く残っています。

宝満川東岸の段丘上にあったのが「吹上城」です。現地には東西方向の土塁が残り、「大木戸」や「大屋敷」などの地名が見られます。平成28年(2016)年に調査された吹上村囲遺跡では、中世以降の大規模な土地造成が確認されました。これは、吹上城に伴う工事である可能性も考えられます。

「大板井城」は、甘木鉄道大板井駅の東側にありました。造られたのは戦国時代で、現在の大刀洗町甲条城主広瀬則国の次男広瀬裕明が城を構えたといわれます。現地には、城の防御のための構造と想定される「七曲り」という何度も屈曲する道が残っています。

乙隈の天満神社北側には、「乙隈城」がありました。数十年前までは深い堀が残され、「大門」などの城に関係する地名が残っています。

皆さんもぜひ一度、郷土の戦いの記憶をたどってみませんか。

問合せ先 文化財課 ☎75・7555

おごおり遺産とは?》》近年の市内調査で「再発見」した文化遺産=市民のたからのこと